

わずか三日間の日本印象記

June 13~15 2014

Derek: このたびの日本訪問は、またとない経験となりました。日本人は皆なとても礼儀正しく、フレンドリーです。交通徳もよく守っています。私はよくアジア諸国をまわりますが、日本のような國はほかにありません。日本の皆さんは自分の國を大いに誇りにおもうべきだと思います。

Dale: デレックさんが言われたとおりです。私もそう感じました。ただもうひとつ、私が目を見はったのは新幹線でした。東京から北へ向って那須塩原まで乗ったのですが、まわりの景色がすばらしく、ぜひ別の機会に訪日して、ゆっくりとほかの絶景も楽しみたいと思いました。今回の旅のハイライトは、何ととっても日本語放送をきいておられるリスナーのみなさんと那須でお会いできたことです。皆さんはとてもすばらしい方々ばかりでした。名前を到底全部おぼえるわけにはいきませんでした。駅で私たちを迎えてくださった小笠原広行さん。それと岩沙一彦さんは私が持っているのと同じ短波受信機を持っておられました。中山さんはご自分のギターで「ワルチングマチルダ」を弾いてくださいました。そして、わざわざ日本古来の尺八や笛の演奏もきかせていただきました。なかでも、いちばん劇的だったのは、土曜日の夜に、オーストラリアからの日本語放送をキャッチしたことです。西オーストラリア大陸のクヌヌラ送信所からの電波が日本の空へ強力に飛んできたのです。しかも、その放送でしゃべっている本人と私たちがここ那須高原に一緒にいるという、偶然とはいえ不思議な瞬間でした。

Derek: いや、全くその通りでしたね。そして日本での放送のパートナーである淀橋教会の主任牧師峯野龍弘先生、副牧師の新川代利子先生にも歓待していただき、ご挨拶をさせていたことは幸いでした。なによりも、日本の首都東京の中心にある淀橋教会が建物が大きいだけでなく、幅広い働きをすすめておられることに感動しました。

Dale: 日本語放送に対してリスナーから毎月寄せられる手紙の数が多いのをみて、これまた大変励まされました。どうか、これからも受信状態とともに番組をきかれての感想など遠慮なくお聞かせください。それから、東京駅周辺を案内してくださり、昼食に特別な日本料理をご馳走してくださった辻由起子さんにもお礼申し上げます。

最後に、私たちには初めての日本訪問でしたが、3日間、乗換駅での人波の混雑にも迷わずに、すべての予定を無事に終え、有意義なすばらしい時間を過ごせたことを関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。



Reach Beyond Australia

最高責任者：デール スタッグ
メディア・マネジャー：デレック キックブッシュ